

議長（志村 忠昭）

おはようございます。

本日も、定刻にご参集を頂きましてありがとうございます。

ただ今、出席議員は14名であります。

よって、地方自治法第113条の規定により、定足数に達しております。

これより、本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、配布の通りであります。

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議規則第125条の規定により、3番、金井浩三君、14番、佐々木勇君を指名致します。

日程第2、一般質問を行います。

質問の通告がありますので、順次発言を許可いたします。

2番、塩野拓二君。

議員（塩野 拓二）

おはようございます。2番、塩野拓二です。

一般質問をさせていただきます。

まず一つ目は、観光協会のあり方についてです。

現在の観光協会は、町が中心となって、さくらまつり・凧揚げ大会や夏まつりを実施しています。

しかし、それ以外の活動があまり見えません。

私も含め一部有志が集まり、B級グルメとして鍋ホルうどんの普及活動や、まち歩きなど、商工会議所地域の活性化につながるよう努力している団体があります。

まちづくり公社を設立し、こうした活動を一元的に行おうという動きもあったと聞いています。

そこで、これからの観光協会のあり方をどのように考えているのか、そして多度津町の観光行政をどのように進めていくのかをお答えください。

よろしくお願い致します。

次です。

2番目、多度津町立地企業への支援窓口設置についてです。

多度津町臨海部の工業地帯には、多くの企業が立地しています。

これらの企業からの税収は、町財政はもとより、従業員の雇用なども含めて、地域に大きな影響をもたらしていると言えます。

このため、町は企業に対して、もっと支援していくことが必要ではないでしょうか。

補助金とか減税とかという支援ではなく、例えば、企業が何か困ったことがあったときや新たに何かをしようとするときなどに相談ができる窓口を設置する、あるいは商工業に関する行政情報を集約し随時提供できるようにすることなどはいかがでしょうか。

役場の担当部署を明示し、企業との連携強化を図るためのパイプ役を作ることについて、お考えをお聞かせてください。

3番目、町民アンケートの結果について。

先の9月議会でお願ひしていましたが、窓口に来られた町民に対するアンケートを早速実施していただきありがとうございます。

その結果は、あまりかんばしくないとは伺っていますが、これまでの状況をご報告ください。

また、町役場1階は、税や福祉の窓口で一般町民が一番多く訪れるところです。

現在1階のフロアでは、各課のパンフレットなどが、それぞれで置かれており、少し煩雑になっているのではないのでしょうか。

もう少し整理して町民にとってわかりやすく活用し易い、便利な空間となるように考えてもいいのではないのでしょうか。

お金もかかりませんし、町民も一番変化のわかる場所だと思います。

いかがでしょうか。

よろしくお願ひいたします。

以上です。

町長（丸尾 幸雄）

塩野拓二議員のご質問のうち、「観光協会のあり方について」お答えをしてみたいです。

私の施政方針に、町おこし等観光行政の推進を掲げております。

いつも申し上げておることですが、町を活性化する為には、行政だけでは無理で民間活力を導入し、連携することが必須だと考えております。

議員の言われているように、行政のやっているさくらまつり、夏まつりだけでは元気にならないと思っております。

歴史ある街並みを再生して利活用する古民家再生プロジェクトや、多度津の歴史探訪である町歩き、オリーブ、ミニトマト、白方かき等特産物の振興等を推進することにより、町に多くの人を招き入れるとともに町外に広く発信することが必要であり、民間と行政が連携して行っていくことが観光行政の推進であり、観光協会の果たすべき役目だと考えております。

議員ご指摘の鍋ホルうどんの普及も同様で、観光協会の枠組みの中で今回、人材育成目的で、B級グルメで町おこし連絡協議会が多度津JR駅前に店舗を開設する予定になっております。

ご理解賜りますようお願いを申しあげ、その他のご質問につきましては、各担当課長より答弁をしてみたいです。よろしくお願ひをいたします。

産業課長（神原 宏一）

おはようございます。

塩野議員ご質問の1点目、「観光協会のあり方について」の答弁を申しあげます。

本町では、観光協会以外の各種団体により町内外で様々なイベントや催しが展開され地域の活性化や本町のPRに大きな貢献をいただいております、大変感謝しているところでございます。

現在、多度津町観光協会は議員のご質問にありますように、産業課商工観光係で業務を執行しており、さくらまつり、全国凧揚げ大会や夏まつりのイベント運営が主な事業となっています。

観光協会は、任意団体であり会員皆様の会費や町補助金により事業を行なっていますが、その支出のほとんどがイベントに係る経費であり、その実施にあたっては概ね町職員が運営しているのが実情でございます。

議員ご質問のこれからの観光協会のあり方については、協会が行政の枠を外れ自由度を増し、独立した運営をすることは理想とするところですが、その組織の構築や運営、人件費を含めた予算の確保、イベント運営のノウハウの継承など解決しなければならない様々な課題があります。

本町といたしましては、今しばらくはイベントの改善やホームページの開設、新規事業の開発などを検討し、観光協会が柔軟性を増すよう努めてまいりますとともに観光協会のあり方につきましては、協会の役員、会員の皆様にご相談しながら慎重に進めてまいりたいと考えています。

本町は、海や島、山や川、田園と工場、鉄道と港、歴史と古い街並みなど、たくさんの資源が狭い所にコンパクトにまとまった町であると認識しております。

観光行政を進めるうえでは、こういった本町の特性を生かし、発掘し、人や物を結び付け積極的に支援、協力をを行い情報発信をしていくことが重要であると考えています。

また近隣市町と共に、広域的な観光資源の開発やPRを進めていく必要もあると考えておりますので、ご理解賜りますようお願いいたします。

次に、2点目の「多度津町立地企業への支援窓口設置について」の答弁を申し上げます。

本町には多くの企業が立地し、税金や雇用ばかりでなく、様々なところで多岐にわたる貢献をいただいております。

ご質問の支援窓口につきましては、香川県や商工会議所など多くの相談窓口が開設されています。

まず、多度津商工会議所には会員、非会員に関わらず利用できる商工業に関する相談窓口が設置されています。

本年10月には、高松商工会議所内に経済産業省所管の香川県事業引き継ぎ支援センターが中小企業の事業継承を支援する無料相談窓口として開設されています。

また、中小企業の経営支援のコンサルティングを行う「一般社団法人香川県中小企業診断士協会」が香川県産業頭脳化センター内にあり、中小企業診断士の紹介やあっせんを行っています。

さらに、本年6月には「公益財団法人かがわ産業支援財団」に、後継者問題や新商品の開発、販路の開拓、資金繰り等、企業の経営上のあらゆる悩みの相談に専門スタッフが対応する「香川県よろず支援拠点」が開設されています。

本町に専門的なスタッフを揃えた相談窓口を開設することはかないませんが、窓口を開設していますそれぞれの機関・団体との連携を深める中で、産業課において、適宜情報提供を行い、問い合わせへの対応や各窓口の紹介等、橋渡しを行ってまいりたいと考えています。

また、情報の提供につきましては、広報・ホームページ等を通じて周知しているところであり、多度津商工会議所でも、毎月の広報誌等で主要な情報を周知提供しているところでございます。

また、中小企業庁の事業であるウェブサイト『ミラサポ』では、補助金や税制などの様々な支援施策情報が提供されています。

今後は、こういった周知が一方通行とならぬよう、町内企業が必要とする情報を見極め、有用な情報発信に努めてまいりたいと考えています。

ご理解賜りますようお願い申し上げます、答弁といたします。

町長公室長（高嶋 好弘）

おはようございます。

塩野議員のご質問の第3点目、窓口に来られた町民に対するアンケートの結果について、お答えいたします。

9月定例会にてご提案頂きました、町民に対する「来庁者窓口アンケート」を10月1日から本庁舎1階におきまして、ロビーの正面及び住民課、税務課、福祉保健課の受付での4か所にアンケート用紙を設置し、実施しております。

現在までにアンケートにご協力いただいた方の枚数は、11枚となっております、結果を集計し難い状況ではありますが、内訳として男性7名、女性3名、未記入1名で40才代から70才代の方が、税務課、住民課に来庁された意見として、総合的に見た職員への対応は、良い、ふつう、悪いが同数程度の結果でした。

なお、職員への自己啓発につきましては、昨年引き続き、「さわやか行政サービス自己診断」を実施し、電話力、対応力、職場マナー力、など自己診断を継続することにより、職員一人ひとりが自分の行動を振り返り、自己啓発の意識を高めるよう努力しているところです。

また、職員の服装や身だしなみをはじめ、担当業務においては、正確な知識を持ち、親切丁寧な言葉使いで迅速な対応ができるよう、外部から専門講師による継続した職員教育等も取り入れ、今後、職員の人材育成に努めてまいりたい

と考えておりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げ、答弁とさせていただきます。

総務課長（石原 光弘）

おはようございます。

塩野議員ご質問の3点目、「町民アンケートの結果について」のうち、町役場1階フロアについてお答えいたします。

町役場1階フロアにつきましては、町民が訪れたときに町の雰囲気が一番に感じる場所です。

非常に大切な場所であると認識しております。

状況をみますと確かに整然としているとは見受けられません。

入口横にはパンフレットの陳列棚、銀行の窓口周辺は各種展示品、小型家電回収ボックスがあります。

また、出納室の入口横には、パーテーションで仕切った税務相談用の小部屋を用意しています。

それぞれ、その時々には設置については検討し、現状に至ったものであります。煩雑になっているのはご指摘のとおりでありますので、出来るだけ早い時期に改善して参りたいと思います。

以上、ご理解賜りますようお願い申し上げ、簡単ではありますが、塩野議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

議長（志村 忠昭）

以上で、塩野議員の一般質問に対する答弁は、町長、各担当課長からありましたが、塩野議員、再質問があればお受けいたします。

議員（塩野 拓二）

ご回答ありがとうございます。

まず1点目ですけれども、「観光協会のあり方について」ですけれども、以前から私の方からも何度か観光行政については質問させていただいたんですけども、民間と連携したり、民間からいろんなことを、まあ多くの、たどつフェスティバルとかいろんなことを発信してやっていると思うんですけども、民間は結構元気であると思うんです。

町の方も観光協会の方もそういったことをやっていかないといけないという思いは十分伝わるんですが、何か一つからでも近々にじゃないですけども、一定の期間を決めてこれからやりましょうということが何かあるのかなあと、やっていくというのは分かるんですが、期間を決めてじゃないですけど、1つ目からこれ始めるとか、後以前にも言ったんですけども、やっぱり町から発信の方がすごくやる気が見えるような気がするんですけども、そういった町から何かを、まあ意見交換会を始めるとかいうそういった町から発信す

ることは何かないかなあというのが、それに対して一つお答えいただきたいのと、後「企業立地の部分ですけども、今おっしゃったようにいろんな窓口がたくさんあって、そのパイプ役として産業課がいろんな事をご相談に乗りながら、そういうところをご案内するということなんですけども、企業からしたらたぶん分からないと思うんです。産業課にそういうところがあると。その多度津だよりであるとか産業課の窓口に大きく、「企業のご相談承ります」みたいな大きくアピールしてはと思うんですけども、そういう部分に関してはいかがでしょうか。

最後に窓口のアンケートですけども、結果としては非常に10月からとしては少ないアンケートの結果ですけども、窓口に来られる町民の方に、こういうアンケートしとんでお答えください、というような形のお声かけとかをして、窓口の住民サービスの向上のためにやっとなんてか一声したら、町民の方が窓口に来られても、町の職員の方もなんかやる気になつとるなあとかって思っていただけなので、そういう一声はかけていただくことは可能でしょうか。

どちらにしろ、3点あったと思うんですけども、町の職員からいろんなお声かけとかアピールとか発信をすれば、もっともっと些細なことではあると思うんですけども、非常に町役場に対しての町民の見方も変わるのではないかと、思っているんですけども、いかがでしょうか。

お願いします。

町長（丸尾 幸雄）

塩野拓二議員の再質問のうち、私の方からは、「観光協会のあり方について」の中で、現在ですね、民間と連携してやっている具体的なことを述べよということですので、そのことについてご説明をさせていただきます。

今観光協会の中で3つの部会に分かれておりまして、「町屋プロジェクト」これは先程申しました歴史ある街並みを再生して利活用する「古民家再生プロジェクト」のことです。

それと、「食材、地産地消部会」これは先程申しましたオリーブやミニトマト、またそういう特産物の振興を促すこと、推進すること。

これは6次産業化を進めて、町外に発信をしていくということなんです。

それとひと、観光これは歴史ですけども、「ひと、観光部会」これは先程申しました「多度津町の歴史探訪」ということで、多度津町の歴史を町内外の方々に説明をしていく、町歩きですね。

その3つの事業を今、観光協会のもとで3つの部会を作って、これでも民間がやっております。

民間の方でお願いをしております。

そういう意味では、町の行政と民間とが連携をしてやっていくということ、そしてこの事業はまだまだ緒に就いたばかりですから、これから力を入れて多度津町を元気にするため、活性化の為に頑張っていこうと思っておりますので、よろしく願いをいたします。

産業課長（神原 宏一）

2点目の支援窓口と産業課がパイプ役になるということについての情報発信なり、企業に伝えていくということの部分でございますけれども、どのような方法がうまくいくのかということは検討する必要があると思っておりますけれども、なるべく産業課でこういうことをやっていますということについて、企業の方へPRしたり、それから会議所を通じてということもあると思っておりますけれども、そういう形の中で進めていきたいと思っておりますので、ご理解いただきたいと思っております。

町長公室長（高嶋 好弘）

塩野議員の再質問についてお答えします。

アンケートの設置場所については、住民課、税務課、福祉保健課の窓口にあります。

議員のおっしゃるように、窓口の職員が声かけもできるように考えておりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げ再質問の回答とさせていただきます。

議長（志村 忠昭）

以上で再質問の答弁は終わりましたが、再々質問があれば、お受けいたします。

議員（塩野 拓二）

すみません。

町長からお答えいただきました「観光協会のあり方について」3つ部会に分かれてお話し合いをしていただいておりますということに対しては非常にありがたいということなんですけれども、全体的な意味においてこれからの観光協会のあり方であったり、その観光のあり方について、なにかこう民間の方と町の方といつも言ってますけど、楽しくお話ができる場を作っていることをお願いしておきます。

あと2点について、非常にいいご答弁いただきましたので、それも含めて3点全部含めて、これからの町職員、行政の前向きな活動、行動に期待いたします。ありがとうございました。